

シロワニ繁殖への挑戦

森 徹・広瀬朋子 (海の中道海洋生態科学館)
徳武浩司 (横浜・八景島シーパラダイス)

ネズミザメ目ミズワニ科に属するシロワニ *Carcharias Taurus* は、1995年に海の中道海洋生態科学館が国内で初めて展示し、それ以降 10 園館で飼育されている。海外においてはオーストラリア、アメリカ、南アフリカ、韓国、中国などの水族館で展示され人気を博している。しかし生息数の減少を懸念し 1984 年より施行されたオーストラリア東海岸を主とした保護条例の強化や、南アフリカにおいても保護活動が活発化するなど、原産国のシロワニを含むサメ類の保護を目的とした規制が強化されつつある。今後日本国内においても、域外保全の一端を担うことを目的に、シロワニの飼育を通じ、生態の新たな知見を得るための研究活動を継続し、国内での繁殖が強く望まれる。

当館では、1995 年と 1996 年に、オーストラリアのシドニーより雌雄 3 個体ずつを、年間飼育水温 20.4-23.1 (平均 21.7) に調整したパノラマ大水槽(水量 1400 m³) に搬入し、毎日 1 回の潜水による直接給餌を行っている。2002 年までの 6 年間の観察では、1997 年 10 月に初めて繁殖追尾行動がみられ、2001 年以降毎年 8~11 月に確認した。この時期はオーストラリアでの繁殖期に当たり、日長時間が北半球側であり、水温もほぼ一定で飼育していたことにも関わらず、その影響を受けずに繁殖周期を継続していることを裏付けた。摂餌量の変化も繁殖行動との関係に一定の傾向がみられた。雄の追尾を受けた雌の摂餌量は、繁殖行動の終息する時期より著しく低下する傾向がみられ、2002 年には 52 日間摂餌しなかった。

また、繁殖行動がなかった 2000 年の 9 月と 11 月には、成熟したメスが大量の卵の排出がみられた。この卵の排出は、1999 年より雌 2、雄 1 の飼育を継続している八景島シーパラダイスにおいても 2006 年と 2007 年に確認しているが、何を意味するものなのか未だ不明である。

当館は、2003 年 10 月に実施した展示変更計画に伴い、毎年正確に訪れる繁殖行動の起因を解明するため、過去に追尾を受けた成熟雌と、受けていない未成熟雌を別水槽に隔離し、それぞれペアを組んだ成熟雄の行動の変化を観察する計画を試みたが、移動の負担が原因で雌 2、雄 1 が死亡し、解明には至っていない。

今後は、国内におけるシロワニ保有園館との連携を深め、繁殖の条件を模索し、ヒントとなる情報を共有すると同時に、長時間を要する繁殖行動等の観察や、ホルモン値等の解析の試みなど、大学との連携も視野に入れたいと考えている。